

(第三種郵便物認可)

# マス商事、海外事業強化

## 営業、サービスエンジニア増員 インド市場にも期待

製造装置商社・マス商事は、海外事業強化のために海外各拠点の営業、サービスエンジニアの人員増強や、「ワンストップ営業」の拡大に取り組んでいる。



大金 執行役員

同社は、ヤマハ発動機（ロボティクス事業部）代理店として、実装機を中心にプリント基板検査装置、クリームはんだ印刷機など、SMTに関わる装置を幅広く扱う。国内のほか中国（蘇州、深圳）、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、タイ、ベトナム（ハノイ、ホーチミン）、メキシコ、インドに営業拠点を構えて、海外展開する日系企業向けのビジネスに対応している。

製造業のインドへの投資が注目を集める中で、同社はデリーに拠点を置いている。大金執行役員は「インドは景気が良く、車も売れている。製造業の投資も増えている。22年9月の展示会（プロダクトロニカ）も盛況だった。オートバイや車の電装基板実装に伴う需要中心に開拓を進める」とインド市場に期待をかけている。

パンコクの繁華街は多くの人出でにぎわい、観光旅行者も増えている。ベトナム、インドなどASEAN全体にコロナ禍から戻ってきた印象を受けている。2022年は半導体不足などの影響で、事業環境は良くなかったが、タイではエアコンなど家電向けが、インドネシアでは二輪（オートバイ）の電装基板向けなどが、中国も全般的に好調だったこともあり、当社の海外売り上げも前年を上回ることができた」と話す。

マハブランドで構築可能なフルラインアップ体制によるSMT「ワンストップスマートソリューション」に加えて、FAやグループのYRH（ヤマハロボティクスホールディングス）の製品を加えたクロスセルを強化している。

23年については「欧米の景気後退が懸念され、ASEANもその影響が心配される。中国の動向は予想できない」など、大金執行役員は慎重にみているが、事業拡大のため引き続き積極的な戦略で臨む。

海外の営業やサービスの体制強化のために、各拠点の人員増強を進めている。タイには日本から赴任してきた女性の営業担当者もいる。

海外営業を統括する大金裕和営業統括本部執行役員・マストレーディングシンガポールMD（マネージング・ディレクター、タイ駐在）は、「タイはコロナ禍から人流も戻り、

コロナ禍前には米中貿易摩擦の影響で、中国からASEANに生産拠点をシフトする日系企業が多かったが、今は落ち着いている。一方で「タイプラスワン」として、近隣のベトナムなどに生産拠点を設ける動きもある。大金執行役員は「タイのエンジニアがベトナムの顧客をサポートしたり、ASEAN域内で顧客に対する横断的なサポートも積極的に行っている。当社の強みとしてさらに拡充したい」と述べる。

海外の営業やサービスの体制強化のために、

大金執行役員は「これまで実装機の営業を重視してきたが、今後はより高品質な生産を提案するために、SMTの周辺設備にも裾野を広げたワンストップソリューションを積極的に推進したい」と取り組む。

海外の営業やサービスの体制強化のために、

大金執行役員は「これまで実装機の営業を重視してきたが、今後はより高品質な生産を提案するために、SMTの周辺設備にも裾野を広げたワンストップソリューションを積極的に推進したい」と取り組む。

海外の営業やサービスの体制強化のために、

大金執行役員は「これまで実装機の営業を重視してきたが、今後はより高品質な生産を提案するために、SMTの周辺設備にも裾野を広げたワンストップソリューションを積極的に推進したい」と取り組む。

海外の営業やサービスの体制強化のために、

大金執行役員は「これまで実装機の営業を重視してきたが、今後はより高品質な生産を提案するために、SMTの周辺設備にも裾野を広げたワンストップソリューションを積極的に推進したい」と取り組む。